

障害者グループホーム第三者評価
評価（結果）報告書

事業所名 愛名やまゆり園 オアシス3

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

評価（結果）報告書（詳細）

7 領域の取組み状況項目 1（評価対象領域 1. 人権の尊重）

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p><u>利用者の人格を尊重した関わり方、権利侵害の防止、プライバシーの保護について</u>（必須記入）</p> <p>（対応項目：「自己評価・第三者評価項目」1-(1)(2)(3)）</p>	<p>（人格の尊重）</p> <p>○利用者の呼称に関しては、「名字＋さん付け」を定期的に人権目標に掲げ、職員全員で常に意識して取り組んでいる。また、プライバシーの保護に関して、非常勤職員（世話人・夜間支援者）を対象に「人権ノート」を活用している。世話人会議の中でテーマを決め、月初めにテーマについての非常勤職員自身の考えを記入し、3ヶ月後に取り組んだ感想を記入して提出している。内容は人権推進委員会担当職員の生活支援員がまとめ、職員全員に周知している。人権について常に考え、意識する取り組みを行っている。</p> <p>○利用者に対して、命令口調や威圧的な態度にならないよう、穏やかな声掛けを意識している。毎日、地域生活支援課の常勤職員（サービス管理責任者・生活支援員）が全ホームを巡回している。平日は15時以降に巡回し、利用者の状態・要望の確認を行うとともに、支援者間（常勤職員と非常勤職員）で声掛けや態度などをチェックし、確認し合っている。</p> <p>○言語での会話が困難な利用者に対しては、利用者の特性に配慮し、ジェスチャーを交えて話をしたり、表情から読み取ったり、実際に物や写真、映像を見てもらいながら説明するなど、工夫している。</p>	<p>○グループホームは一人職場のため、方法論や対応方法にどうしてもばらつきがあり、独りよがりになることがある。最低限のルールやマナーなど、あらためて統一する必要がある。</p> <p>○非常勤職員の研修参加率は高いが、非常勤の職員は、規定の研修以外は任意の参加となる。参加できなかった職員に対しては資料を配布し、当該職員が勤務の際、常勤職員が口頭で内容を伝えているが、限界もある。研修参加を必須にするなど、改善が必要である。</p>

	<p>○利用者に対して支援を行う際には、必ず本人に確認を取ってから行っている。また、利用者の視点に立ち、必要以上もしくは一方的な支援にならないよう、世話人会議や課会議、モニタリング会議などを定期的に開催し、具体的な内容や気づきをあげて検討している。</p>	
	<p>(権利侵害の防止)</p> <p>○障害者虐待防止法や、障害者差別解消法の施行に伴い、職員を対象とした研修会を開催したり、虐待防止についての啓発活動を適宜実施している。権利侵害の防止に関する研修会は、法人全体の階層別研修会として定期的に開催している。</p> <p>○障害者総合支援法の改正にあたっては、利用者や家族に情報を提供し、質問などに適宜対応している。情報の提供は、毎月開催される運営主体施設全体の家族会の場や、グループホームの家族懇談会の場で行っている。</p>	<p>○見学者は多くないが、急な見学者については、利用者の了解を得られないまま受け入れることがあるので、注意が必要と捉えている。日頃から見学者などが苦手な利用者があるホームには見学しない。</p>
	<p>(プライバシーの保護)</p> <p>○利用者の居室を訪れる際には、ノック、声掛けして、返事があるまでは入らないようにしている。また、鍵を自己管理できる利用者2名の居室については、自室の鍵を渡して、利用者が居室を出る際には施錠してもらっている。本人から依頼されない限り、不在時は入室しない。</p>	<p>○プライバシーの保護について、異食行為のある利用者の安全面への配慮から、緊急時など、利用者の居室に入る際のルールが時として守られていないことがある。</p>

<p>※その他、利用者とのコミュニケーションや制度の利用支援など、人権の尊重に関する取り組みについて、特記事項があれば記載してください（任意記入）</p> <p>（対応項目：「自己評価・第三者評価項目」1-(4) (5) (6)）</p>	<p>○利用者一人ひとりの要求や要望に対して、少しでも思いを汲み取れるよう、本人と向き合う姿勢を心掛けている。</p> <p>○利用者個人宛の電話や手紙などは、本人に直接繋ぐよう対応している。利用者個人に対しての面会者も、本人の了承を得てから取り次ぐようにしている。</p> <p>○成年後見制度や日常生活自立支援事業に関しては、家族会の場で運営主体施設の職員が説明し、家族の理解を図っている。現在、成年後見人が選任されている利用者が4名いる。利用者に対しての説明も、繰り返し噛み砕いて情報提供するよう心掛けている。</p>	<p>○伝達したい事項について、本当に理解できるように伝えられているか、疑問に思う場面も見受けられる。絵や写真を用いることや掲示物の漢字にはルビを振るなど、「伝える」ことに対し、より一層配慮した取り組みが必要である。異食行為がある利用者があり、リビングに掲示物を貼ることができない現状がある。</p> <p>○成年後見制度の利用促進については、今後更に力を入れていく必要があると考えている。</p>
---	--	---

7 領域の取組み状況項目 2 (評価対象領域 2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p>利用者の希望や意見のホーム運営への反映、個別支援計画の策定について (必須記入)</p> <p>(対応項目:「自己評価・第三者評価項目」2-(7)(8))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者・家族の意向や希望を確認し、総合的な支援の方針につなげている。個別支援計画は、担当職員が利用者、家族と面談を行い、サービス管理責任者が作成し、毎月のモニタリング会議や課会議、世話人会議で、利用者全員の支援状況を確認し、半年に1回、個別支援計画の見直しを行っている。 ○障害福祉サービス受給者証の更新に合わせ、「サービス利用契約書」や「重要事項説明書」の内容を、利用者や家族に説明し、確認のサインをもらっている。 ○常勤職員の毎日のホームの巡回で、非常勤職員と情報交換を行い、利用者の要求を汲み取り、反映できるようにしている。利用者の年齢層が若いことから、外出や買物の希望が多い。 ○利用者の変化に気付いた際には、様子を観察し、健康面での変化に関しては看護師や医師に報告し、異常時は通院するなど、早めの対応を行っている。グループホームで雇用した看護師が、毎週1回、木曜日にグループホームを巡回して、利用者に変化がないか確認している。 ○生活介護事業所や就労継続支援B型事業所など、日中活動事業所を利用している利用者については、毎日「連絡ノート」や電話で、事業所の職員と情報交換をし、連絡を密に取るようにしている。 ○グループホームごとに利用者自治会を作り、定期的に話し合いを 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人の希望や意見を表現することや、物事を理解することが難しい利用者に対し、個別支援計画書が利用者にとって満足しうる内容であるのか、利用者の意向にどこまで沿っているのか確認することが困難な状況にある。そのような方については、どうしても家族の意向を重視してしまう傾向にある。利用者個人の要望、希望に近づける必要があると捉えている。 ○個別支援計画書にはルビがなく、利用者に分かりづらいものになっている。今後は絵や写真を取り入れるなど、利用者にわかりやすい書式に改善する工夫が必要であるとともに、説明の方法も工夫する必要があると捉えている。 ○個別支援計画の進捗状況は、生活記録と分けていないため、確認しづらい面があるので、改善する必要があると捉えている。

	<p>行い、利用者の意見を汲み取る場を設けている。自治会長を選び、運営は職員も手伝っている。</p> <p>○サービス満足度調査を実施している。満足度調査は、「はい、いいえ」で答えられるグループホーム独自のアンケート票を作成し、記入が難しい利用者は、聴き取りも行っている。</p>	
<p>※その他、<u>自立支援</u>や<u>相談支援</u>など、意向の尊重と自立生活支援に関する取り組みについて、特記事項があれば記載してください（任意記入）</p> <p>（対応項目：「自己評価・第三者評価項目」2-(9)(10)）</p>	<p>○自己選択・自己決定を尊重し、サポートが必要な部分のみ支援できるように、支援者全員の意識統一を図っている。利用者と一緒にいたり、声を掛けたりして、利用者自らが無理なく楽しく取り組めるような支援を心がけている。</p> <p>○利用者個々の取り組みについては、モニタリング会議資料や送りファイルを活用し、非常勤職員に進捗状況をこまめに伝えている。</p> <p>○希望する利用者や必要と思われる方について参加は多くないが、オンブズマン（Aネット）による相談支援を定期的実施し、風通しの良い環境作りに努めている。</p> <p>○朝と夕方は世話人2名体制にするなど、グループホームに複数の支援者を配置することで、利用者が相談しやすい支援者を選ぶことができるよう配慮している。</p> <p>○利用者から相談を受けた場合には、その場で解決できることは直ちに行い、そうでない場合は、関係者を交えて相談し、利用者の希望に沿うよう努めている。</p>	<p>○利用者の自立支援に向けた取り組みについて、利用者の高齢化の問題などを含め、もっと精査していく必要があると捉えている。</p>

7 領域の取組み状況項目 3 (評価対象領域 3. サービスマネジメントシステムの確立)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p><u>金銭管理、不満や苦情の解決、事故・急病や災害等の緊急時の対応準備について</u> (必須記入) (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」3-(11)(12)(13)(14))</p>	<p>(金銭管理)</p> <p>○「愛名やまゆり園預かり金管理規定」に則り、金銭管理の方法を定め、利用者の通帳を地域生活支援課金庫にて預かっている。原則として週2回、金融機関にて最低限の現金を払い戻し、現金はグループホーム事務所金庫にて保管している。また、工賃や家族などから預かった現金については、適宜金融機関に預けている。</p> <p>○毎月、利用者別の通帳のコピーを添付した金銭出納簿を作成し、原則毎月、家族会や懇談会の場で、利用者や家族に確認してもらっている。</p> <p>○自分で金銭管理のできる利用者1名については、受取証を発行し、必要に応じた金額を本人管理としている。</p> <p>○グループホームの金庫で保管している利用者の現金は、毎日、非常勤職員が確認している。ミス防止のため、金銭管理マニュアルを周知徹底し、平日は朝・夕2回、休日は朝・昼・夕の3回、非常勤職員間で、金庫内に保管している現金のダブルチェックを行っている。また、週2回、常勤職員がグループホーム金庫と地域生活支援課金庫の確認を行い、必要に応じて、地域生活支援課金庫からグループホーム金庫への入金を行っている。</p> <p>○法人全体の取り組みとして、定期的に、運営主体施設内、法人内にて、金庫内の現金確認を実施して</p>	<p>○利用者が地域での生活を始めたことから、金銭管理についても、自己管理できる環境作りなどについて、今後さらに取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○利用者が自由に使える財布を持つ取り組みを検討している。</p>

	<p>いる。</p> <p>○週末の日中に、現金を利用した際は、精算する支援者と確認する支援者を別にして、責任の所在を明確にしている。不具合が発生した場合は、常勤職員へ緊急連絡を入れ、確認作業を行うようにしている。</p>	
	<p>(苦情解決)</p> <p>○苦情解決責任者や苦情受付担当者、オンブズマンの名前と連絡先を、グループホームの共有スペースに掲示している。重要事項説明書にも、連絡先を明記している。</p> <p>○運営主体施設で、月に1回、オンブズマン説明会を開催し、グループホームの利用者も適宜出席している。</p> <p>○厚木地区オンブズマンネットワーク（Aネット）の取り組みとして、「ホームしゃべり場」というホーム相互訪問会を実施している。他法人職員のグループホーム訪問を受け入れ、利用者の生の声を聞いてもらう機会を設定し、透明性を高めている。訪問は、3ヶ月に1回程、夕食後に受け入れている。</p> <p>○個々に利用者の話を聞き、迅速な解決に努めている。すぐ判断できない場合は、話し合いの場を設け、解決策を見出している。</p>	<p>○言語でのコミュニケーションが困難な利用者からの意見などをどう吸い上げるか、大きな課題である。</p> <p>○苦情について、気軽に話せる機会を定期的に設定する必要があると捉えている。</p>
	<p>(緊急時対応)</p> <p>○法人やグループホーム全体で、緊急時対応マニュアルを整備し、緊急事態の発生に備えている。</p> <p>○グループホームの支援員室に緊急時の連絡先を掲示している。運営主体施設の診療所とも、日頃から情報交換を行い、協力体制を取</p>	

	<p>っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループホーム用携帯電話を常勤職員が所持し、時間外についても、非常勤職員と速やかに連絡が取れるようにしている。また、管理者・サービス管理責任者の携帯電話番号も、非常勤職員に周知している。 ○運営主体施設全体の取り組みとして、課ごとに全職員の緊急連絡網を作成し、年1回緊急時の連絡訓練を行っている。 ○毎夜23時に、夜間支援者は運営主体施設を交えた定時連絡を実施し、緊急時に備えている。 ○グループホームでは年2回、避難訓練を実施している。玄関付近には「非常持ち出し袋」を用意している。 ○厚木市が実施した要援護者移送訓練・受け入れ訓練に参加し、大規模災害を想定した防災訓練を実施している。訓練には、グループホーム利用者全員が参加している。 ○緊急事態に備えて、共用の車椅子を玄関に置いている。 ○スプリンクラー設備、自動火災通報装置、自動火災報知機などの設備を完備している。 ○機械警備を導入し、非常時にはサポートを受けられる体制を取っている。また、グループホーム内に不審者が侵入した際に他者に知らせるホイッスルを導入して各職員に配布し、携帯している。グループホームに催涙スプレー、携帯用のセコム緊急スイッチを常備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時、支援者や利用者が落ち着いて行動できるか心配である。 ○利用者は電話を利用することが難しい方が多いため、避難訓練は支援者の指示に従って行動するスタイルが主である。今後は常勤職員が対応できない場合、どうすればいいかという想定訓練も必要であると考えている。 ○運営主体施設との連携を強化し、夜間想定等のシミュレーションを兼ねた取り組みを、積極的に行う必要があると捉えている。 ○万一の際は、運営主体施設へ避難する流れになっていることもあり、グループホームの備蓄品が十分でない現状がある。
--	---	--

<p>※その他、緊急時の地域との協力関係やバックアップ体制整備や生活環境整備など、サービスマネジメントに関する取り組みについて、特記事項があれば記載してください（任意記入） （対応項目：「自己評価・第三者評価項目」3- (15) (16) (17)）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歩行が困難になっても、地域での暮らしを継続できるよう、1階はすべてバリアフリーの造りになっている。 ○運営主体施設とは、3桁の内線電話番号でいつでも連絡が取れるようになっている。 ○エアコンによる室温設定が自分では困難な利用者については、必要に応じて支援者がリモコンで調節している。 ○昼間や休日など、利用者がグループホームで過ごす際は、必ず支援者を配置して対応している。 ○市主催の避難訓練や地域の防犯パトロールに参加している。地域住民とともに、避難場所への移動を実際に経験することにより、有事の対応がスムーズとなり、また地域住民への利用者理解促進となっている。防犯パトロールには、職員が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の対応など、さらなる地域との連携について、今後も検討が必要であると考えている。
---	---	---

7 領域の取組み状況項目 4 (評価対象領域 4. 地域との交流・連携)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p>地域との関係づくり、連携 について (必須記入) (対応項目: 「自己評価・第三者評価項目」 4-(18))</p>	<p>○運営主体施設主催の2大行事「納涼祭(7月)」「あいなまつり(10月)」については、広く地域住民・関係機関に開催を周知し、毎回多くの方に来訪してもらっている。</p> <p>○近隣住民や地域店舗との日々の挨拶は、欠かさず行うようにしている。また、近隣小・中学校の運動会や自治会主催の盆踊り大会には必ず参加している。利用者自身が積極的に挨拶をするなどして、地域交流を行っている。</p> <p>○グループホームでの取り組みを紹介した「ホーム通信」を3ヶ月に1回発行し、周辺住宅約50軒に利用者と1軒1軒徒歩で回り、配布している。また、「ホーム通信」には地域生活支援課の電話番号を載せ、苦情などを言いやすい、連絡しやすいようにしている。グループホームにAEDが設置されていることを定期的に近隣住民に知らせ、地域の方たちが安心して生活できるようにしている。</p> <p>○地域の自治会に加入し、自治会の活動に参加している。年末の美化清掃の参加や、夏の盆踊り大会では出店をして利用者も一緒に売り子などの手伝いを行っている。また、グループホームとしては近隣の子ども達を誘い、七夕の短冊飾りやハロウィンパーティーのお菓子交換や餅つきなどを行っている。</p>	<p>○平成27年度から、地域の自治会に加入したが、さらなる地域との積極的な連携について、強化が必要である。</p>

7 領域の取組み状況項目 5 (評価対象領域 5. 運営の透明性の確保と継続性)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p><u>ホームにおけるサービス提供の考え方や内容の周知、運営に関する法令の遵守</u>について (必須記入) (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」5-(19)(20))</p>	<p>○グループホーム利用時および契約更新時には「重要事項説明書」を用いて、サービス提供方針や内容を利用者や家族に説明している。「重要事項説明書」は、いつでも内容を確認できるよう玄関に掲示している。</p> <p>○障害者総合支援法については、制度の正しい理解と運営への反映を意識した業務遂行を心がけている。都道府県・市町村からの通知はその都度文書を全職員に周知し、世話人会議で補足説明をするとともに、会議に出席できない非常勤職員については、常勤職員がホームに足を運び、口頭で説明をするようにしている。</p>	<p>○「重要事項説明書」にルビはなく、利用者にはわかりにくい内容となっている。今後、利用者にもわかりやすい書式に変更する必要がある。</p>
<p>※その他、<u>運営理念や方針の周知、意思決定の仕組み、自己評価の実施</u>など、運営の透明性と継続性の確保に関する取組みについて、特記事項があれば記載してください (任意記入) (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」5-(21)(22)(23))</p>	<p>○月1回の世話人会議やモニタリング会議、課会議にて、支援内容や運営状況の確認を行っており、方針・意識の統一を図っている。</p> <p>○毎日、常勤職員がグループホームを巡回し、非常勤職員の意見・要望を積極的に収集・確認しており、実際の支援に活かせるよう努めている。また、週に1回、グループホームで雇用した看護師が巡回を行っている。</p>	

7 領域の取組み状況項目 6 (評価対象領域 6. 職員の資質向上の促進)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p><u>職員の勤務条件や職務内容の適正化、資質向上のための研修体制の整備について</u> (必須記入) (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」6-(24)(25))</p>	<p>○常勤職員は、階層などに応じて、法人内の階層別研修への参加が義務付けられている。新採用者研修、フレッシュマン研修、中堅Ⅰ研修、中堅Ⅱ研修、監督者研修、管理者研修に分かれ、階層別にテーマを決めて実施している。</p> <p>○運営主体施設主催の非常勤職員研修に、年2回は必ず出席している。</p> <p>○法人及び法人内4園の研修会や勉強会は、それぞれの研修委員会で内容を企画している。オープンセミナーでは、他法人職員や家族、一般にも参加を呼びかけている。研修会や勉強会には、グループホームの非常勤職員も適宜参加している。</p> <p>○法人主催の世話人研修会を開催している。人権をテーマとした講義やグループ討議などの中で、障害の理解と促進、支援方法について学ぶ機会となっている。</p> <p>○厚木地区グループホーム連絡会主催の世話人研修会を年2回開催し、非常勤職員のスキルアップに努めている。内容は人権についての講義、救命救急講習会、グループ討議など、参加型の内容を意識して取り組んでいる。</p> <p>○常勤職員が毎日グループホームを巡回する際、非常勤職員の意見を拾い上げ、職場環境や職務内容の改善に努めている。</p>	<p>○研修などへの参加が困難な非常勤職員への教育については、今後の課題であると捉えている。</p> <p>○積極的に研修に参加できるような環境と、魅力ある研修内容について、検討する必要がある。</p>

<p>※その他、<u>ボランティア・実習生の受入れ体制整備</u>など、職員の資質向上の促進に関する取り組みについて、特記事項があれば記載してください（任意記入）</p> <p>（対応項目：「自己評価・第三者評価項目」6-(26)）</p>	<p>○グループホームでは申し出があれば、ボランティア・実習生・他法人からの支援者の受け入れを行っている。研修目的に合わせて、受け入れ先のグループホームを決めている。受け入れの際は、常勤職員が対象者をグループホームに案内し、説明を行っている。</p> <p>○グループホームのオーナー（地域の方）が毎月、手弁当で利用者と一緒に過ごす時間を作っている。利用者には、友達のような存在として関わっている。</p>	<p>○運営主体施設からの依頼が中心であるため、ボランティアや実習生を積極的に受け入れているとは言い難い状況にある。</p>
--	---	--

7 領域の取組み状況項目 7 (評価対象領域 7. 日常生活支援)

項目	努力、工夫していること (取組みの状況を具体的に記入)	課題と考えていること (課題の状況を具体的に記入)
<p><u>健康管理・服薬支援、自由時間の支援や就労（一般就労・福祉的就労）への支援、家族とのホームとの関係づくりについて（必須記入）</u> (対応項目：「自己評価・第三者評価項目」 7-(27) (28) (29) (30) (31) (32))</p>	<p>(健康管理・服薬支援)</p> <p>○週に1回、グループホームで雇用した看護師がグループホームの巡回を行い、健康面でのフォローを行っている。</p> <p>○全利用者について毎朝検温を実施し、異常時は直ちに生活支援員が運営主体施設の診療所に報告・相談している。医師から指示のある利用者のみ毎日、朝・夕に血圧測定を実施している。</p> <p>○利用者の健康診断は運営主体施設の診療所や協力医療機関と連携し、定期的実施している。健診結果を受け、必要に応じて医療機関に相談している。</p> <p>○利用者の定期受診および突発的な通院については、運営主体施設の診療所と連携し、必ず常勤職員が付き添い、状況・病状の報告をし、指示や処方についての情報を確認の上、利用者・家族・支援者に周知徹底している。</p> <p>○利用者の服薬支援については、薬をグループホームで預かり保管し、毎回支援者が介助している。服薬拒否のある利用者はいない。ミス防止のため服薬マニュアルを周知徹底し、平日は朝・夕2回、休日は朝・昼・夕の3回、支援者間でのダブルチェックを実施している。</p> <p>○感染症対策として、グループホーム内では日頃より手洗い・うがいの励行を徹底している。利用者が全員、日中は外出するため、インフルエンザやノロウイルスなど</p>	

	<p>の感染症の罹患に注意している。 対応マニュアルを掲示し、グループホーム内には消毒薬・ペーパータオル、使い捨ての手袋・ガウン・靴カバーを常備している。</p> <p>○疥癬の予防のため、シーツや衣類、タオルなどを高温で洗濯した後、乾燥機を使用している。</p>	
	<p>(自由時間・就労支援)</p> <p>○休日や自由時間には、グループホームの支援者や移動支援ヘルパーと一緒に、地域のイベントやカラオケなどの娯楽施設、レストランやショッピングセンターなどに外出している。</p> <p>○単独で外出可能な利用者については、事前に行き先を確認し、個々の希望に最大限沿うよう準備している。</p> <p>○温泉旅行やディズニーシー旅行など、利用者の希望を実現するために、車椅子で入浴できる温泉宿を探したり、和室にベッドを入れてもらうなどの支援を行い、グループホームの仲間との旅行を実現している。</p>	<p>○移動支援の支給決定を受けているにも関わらず、移動支援事業所・ヘルパー不足のため、実際のサービスに結びつけることができない利用者がある現状がある。</p> <p>○個々のニーズ・能力に合わせた幅広い選択肢や資源が必要である。</p>
	<p>(ホームと家族との関係)</p> <p>○運営主体施設では、毎月1回家族会を開催し、障害福祉サービスを取り巻く状況や法人内の動きに関する情報提供・意見交換の機会を設定している。</p> <p>○グループホーム家族懇談会も年6回開催し、グループホームの取り組みや利用者の様子などを報告し、家族からグループホームの運営についての意見を聞く機会となっている。また、この機会に金銭出納簿の確認を行っている。</p> <p>○懇談会に出席できない家族につ</p>	

	<p>いては、適宜、職員が自宅を訪問したり、電話や手紙などで情報提供している。金銭出納簿の確認については、定期的に書類を郵送している。</p> <p>○利用者・家族と相談し、家族宅への帰宅日時の調整を行っている。帰宅の際は連絡ノートを活用し、利用者のグループホームでの様子や、家庭での様子を情報交換するツールとしている。</p> <p>○休日などで家族がグループホームに来訪した際は、利用者の居室を見てもらったり、日々の暮らしの様子を伝えるようにしている。</p> <p>○グループホームでの行事や旅行、日々の生活の様子がわかるDVDを作成し、家族や見学者に観てもらっている。</p>	<p>○利用者家族の高齢化・体調不良などで、グループホームに来訪できない家族との関係については、今後の課題であると考えている。</p>
<p>※その他、<u>食事や入浴、排せつ介助、整容支援、安眠支援、新聞・テレビや嗜好品の支援、利用者の行動障害への対応</u>など、日常生活支援に関する取り組みについて、特記事項があれば記載してください（任意記入） （対応項目：「自己評価・第三者評価項目」7-(33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40)）</p>	<p>○平日の調理用の食材は配食業者を利用しており、アレルギー食材に注意して献立を選んでいる。非常勤職員が調理し、温かい食事を朝・夕提供している。</p> <p>○休日の昼食は、利用者の希望を聞いて世話人が食材を調達・調理したり、近所のコンビニエンスストアで購入したり、出前を取るなどして、本人の希望に沿えるように努めている。</p> <p>○必要物品の購入支援については家族に任せている利用者、職員が代行して購入する利用者、職員と一緒に購入する利用者、移動支援を伴って購入する利用者とはさまざまな方法で支援している。</p> <p>○浴室はグループホームに2箇所設置している。入浴介助が必要な利用者については、支援者が介助している。入浴の順番は利用者の</p>	

	<p>間で自然に決まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者1名は部屋に冷蔵庫を置いている。飲み物や菓子類の量を自分で調節できるため、摂取については本人に任せている。 ○異食行為がある利用者の障害特性に配慮し、リビングにはポスターなどの掲示や、植物の飾り付けを控えている。 ○排泄の失敗がある利用者があるので、汚物処理機を置いている。 ○寒暖の調整が難しい利用者については、居室を回り、エアコンや季節に適合した衣類・寝具類の調整ができるよう支援している。 ○玄関前、グループホーム内の階段には手すりを設置し、階段には滑り止めを使用し、移動に支障がある利用者に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要物品の購入支援では、利用者によっては一緒に買い物に行く時間が取れず、職員が代行するため、利用者自身による選択が後回しになっている。 ○利用者の食の嗜好に偏りがあり、食事に関して、選択肢の幅が狭い。 ○早番と遅番の支援者を2名配置していることで、1名が女性支援者の際に、状況によっては、排泄時の対応が同性介助を行えない時がある。
--	--	--

その他特記事項：第三者評価機関として今後、特に課題として取り組みを期待したい事項

(※特記する事項がない場合は無記入)

関連領域 (1～7を 記載)	第三者評価機関からのコメント	
3、7	取り組みを期待 したい事項	利用者の高齢化や、障害の重度化に対応できるグループホームの運営に期待する。
	理由	障害支援区分の平均が5.3と、比較的重度知的障害、自閉症スペクトラムの利用者が多いことから特化した支援、利用者の通院回数が増えていることなどから。

第三者評価機関コメント 利用者調査の結果

項目	コメント
<p>利用者調査で確認できたこと (※次の調査方法のうち該当するものに○印を記入)</p> <p>①ヒアリング調査(本人)</p> <p>②ヒアリング調査(家族)</p> <p>③観察調査</p>	<p>◇ヒアリング対象者 2名</p> <p>◇ヒアリングの方法 日中活動から帰宅した2名の利用者に、調査員が聴き取りを行った。ヒアリングは、利用者の居室で実施した。調査員の問いかけに対し、グループホームでの生活や日中活動の様子を話してくれた。</p> <p>◇ヒアリングで確認できたこと</p> <p>○ホームの職員は、とても優しい。</p> <p>○できたこと、思っていることを職員に話し、聞いてもらっている。聞いてくれると安心する。</p> <p>○ここは、いいところ。</p> <p>○家族からの電話は、すぐに取り次いでくれる。</p> <p>○お風呂もいいし、食事もおいしい。好き嫌いはない。</p> <p>○自分の部屋の鍵はいつも持っていて、出掛ける時は鍵を掛ける。</p> <p>○部屋では、テレビでマンガを観ている。マンガが好き。</p> <p>○カラオケに行って、よく歌う。とても楽しい。</p> <p>○コンビニエンスストアに行って、新聞を購入する。</p> <p>○作業はタオルたたみを行っている。日中活動も楽しい。</p>

障害者グループホーム第三者評価 評価後のコメント表

評価後（評価結果を受け取った後）のグループホーム「コメント」（自由記述）

評価を受けた障害者グループホームのコメント

今回、このような振り返りの機会を得て、できていること、もっと工夫が必要なことが明確になりました。普段日々の業務の中で目の前の事柄については職員間の連絡体制が取れていると思っていましたが、自己評価に取り組んだことで、これまで秘められていた職員一人ひとりの思いや考えを確認することができ、大変貴重な機会となりました。

オアシス3利用者は重度の知的障害と自閉症スペクトラムを併せてある方の支援を世話人2人体制で配置し、個々のニーズに対して、これからもよりよい地域生活実現に向けて支援を考えていきたいと思えます。第三者評価を受審したことで利用者支援に携わる職員一人ひとりの意識向上につながるきっかけと、今まで以上に人権擁護に配慮したサービス提供を心掛けたいと思えます。